

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100082		
法人名	医療法人三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター鷹峯 (1階)		
所在地	京都市北区鷹峯南鷹峯町32-37		
自己評価作成日	平成25年1月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さいですが、裏に畑があり、家庭菜園による季節にあった食物を栽培し、利用者様と一緒に収穫し、みんなで食することを楽しみにしている。“一緒に”をモットーにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2690100082-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年2月4日

当該事業所は理念を基に、利用者が事業所を我が家と思われたいように支援すればいいかを常に意識しながら実践に向けて取り組んでいます。職員間のチームワークは良好で常に連携を図り、課題については検討の上、まずは実施してみるという姿勢で取り組んでいます。また、家族との関わりも大切に考え、利用者の誕生日や敬老会、クリスマス会等の事業所の行事には家族の参加を得て共に楽しめるよう工夫しています。職員は利用者の趣味や出来ることを引き出し、友人とお琴の練習に出かけたり、食事の準備や洗濯物たたみ、野菜の水やりなど、利用者の思いに沿って暮らせるよう個別支援にも取り組んでいます。また地域の保育園児の訪問や、地域の行事への参加、避難訓練には地元の消防団の協力もあるなど、地域との良好な関係が深まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員みんなで意見を出し合い、理念が出来上がった。「温かい家庭的な雰囲気を感じることができ、それぞれが共に生き、語り合い、教わり、共に笑い、助け合い、喜びを感じあえる“わが家”となるよう努力して参ります。」を職員共有し、実践に繋げている。	利用者が職員と一緒に暮らし、当該事業所が我が家と思えるようにという思いを込め理念を作成し、各ユニットのリビングに掲げています。理念を基に余生をここでどのように暮らしてもらうかを職員全員で考え、理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板などにより、地域の情報をえている。地域行事(夏祭り、地蔵盆、自主防災訓練など)など出来る限り、参加させていただき、近所付き合いを深める努力をしている。鷹ヶ峯保育園や旭ヶ岡中学校との交流もある。	開設前にオーナーの地域への積極的な働きかけもあり地域との関係は良好で、夏祭りや地蔵盆などの行事に参加したり、日々の散歩の中で挨拶を交わす等、地域との交流が深まっています。保育園児の訪問や中学校の職場体験等も受け入れ子供たちと触れ合う機会もあります。今後ホームでの夏祭りや認知症サポーター講座等地域に向けて発信して行きたいと考えています。	地域の方が気軽に訪ねて来てもらえるための取り組みを考えており、ホームでのイベント時に地域の方に参加してもらえるよう運営推進会議や回覧板等で周知参加を依頼されてはいいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーは家族、地域の社会福祉協議会の会長、地域包括支援センター職員。地域とホームとの橋渡しができるように、また、事業への改善に努力している。	会議は町内会長、社会福祉協議会会長、家族、包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1度開催しています。ホームの状況や事故報告等を行い参加者からも多くの意見をもらい有意義な会議となっています。会議での意見を受けて家族に対して終末期についてのアンケートを実施するなど、速やかに対応しています。出された意見に対しての結果は会議の中で報告し、サービスの改善に活かすよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新時の訪問調査を北区役所にお願し、協力をいただいている。	運営推進会議の議事録を直接届けたり、制度上わからないことがあれば電話で聞いています。また、行政からのアンケート調査等を受け入れ相互に協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では、身体拘束は行ってはいないが、身体拘束に関する研修や勉強会に関しては、法人内外部研修のみで伝達研修ができていない。	職員は法人内外での研修を受け不参加の職員には資料を閲覧し、身体拘束についての理解を深めるよう努めています。家族からの玄関施錠についての要望に対してはセンサーを設置して見守る事を説明し、玄関は開錠するようにしています。利用者に対して日々行動を止めずにサポートするように接することに留意し、不適切な言動が見られた場合は申し送り時に注意しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修で学ぶ機会はあるもの、伝達研修で職員全員まで学ぶ機会がない。		

ケアサポートセンター 鷹峯（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修で学ぶ機会はあるもの、伝達研修で職員全員まで学ぶ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安点、疑問点などないように利用者様、家族様には十分にご説明し、ご理解していただけるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日々のお話、家族様には面会時にお話をきいたりして、あがってきた意見や要望に関しては、職員全員で解決していけるように努力している。今年度は、ほほえみがえしという利用者様、家族様に対するアンケート調査（満足度）実施した。	アンケートや面会時、電話等で意見、要望を聞いています。家族からの意見を受け職員にも周知して検討し、ホームの掃除方法を改善したりホームで家族と一緒に食事を摂ってもらうなど、サービスの向上に反映させています。アンケートの結果や改善点については、今後家族に報告していく予定です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の要望や意見を聞く努力はしている。職員会議は毎月1回実施。その会議であがった職員からの意見、要望に関しては、出来る限るそえるように努力している。また、管理者で解決できない場合は、法人の人事部に相談しながら、解決に向け、努力している。	フロア会議や全体会議の中で活発に意見が出ており、感染症対策でトイレ前に消毒液を浸したマットを置いたり、スポンジを熱湯消毒する等その時々意見を出し合いながら、まずは実施してみることを心がけ、再検討し改善に向けて取り組んでいます。また法人からの個別のヒアリング時も相談や意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業本部より年二回の賞与の関する査定調査にて管理者や職員の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は状況を見て確保している。年間の研修計画に関しては立案しているが、計画を実施できないこともある。本年度より、事業本部より内部研修を年間計画にもとづき実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、ケアサポートセンターの事業所が集まり、研究発表会を開催している。今年度は、地方の医療機関とコラボレーションして、研究発表会を実施し、職員の質の向上に努めている。		

ケアサポートセンター 鷹峯（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、事前の面談で本人様の状況把握をするため、ご自宅へ出向いたり、利用者様がおられる事業所に出向いて本人様と家族様まじえて直接、お話をきき、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り、事前の面談で本人様の状況把握をするため、ご自宅へ出向いたり、利用者様がおられる事業所に出向いて家族様に直接、お話をきき、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所困難ケースもあり、入居希望されている居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携をとるなどして必要なサービスにおつながりできるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちの理念にある～共に生き、語り合い、教わり、共に笑い、助け合い、喜びを感じあえる“わが家”となるように～と掲げているようにお食事を一緒にしたり、お買い物と一緒にいったりして一緒にをモットーにご利用者と職員の垣根をこえられるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族とおなじような思いで支援していくための努力をしている。職員の勝手な判断ではなく、迷ったら、家族様に相談することを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの関係がなるべく途切れないように、お琴の練習に参加し続ける利用者様、今まで通っておられた歯医者さんや美容室に行けるように利用者様が継続できる支援を心がけている。近所付き合いがあったパン屋さんが遊びに来られ、パンの差し入れがあったり、兄弟での外出も続いている。	友人、知人の来訪があり手作りの品を差し入れされたり、居室でお茶を飲んだり一緒に外出されることもあります。美容院への送迎や馴染みの場所へドライブを兼ねて出かけたリ、お琴のサークルへの参加など、今までの関係が途切れないよう希望に応じて支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の仲の良し悪しはみられるが、利用者様が孤独を感じないように職員が側に一緒に座って共に時間を過ごしたり、また、利用者様同士が仲良く過ごしていただけるように支援している。		

ケアサポートセンター 鷹峯（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を断ち切るのではなく、大切にしていけるように努力していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様や家族様の暮らしに対する意向は大切にしている。もちろん、職員の思いもあり、それを踏まえてケア会議で検討している。利用にあたっては家庭訪問し、利用者様や家族様の意向を把握し、担当ケアマネジャーの情報もえている。	入居時に利用者や家族から生活歴や興味のあること、ホームでの暮らし方の希望等聞き取り思いの把握に繋げています。日々の会話や動作、表情等から知り得た情報は気づきシートやケース記録に残し、月1回のケア会議にて本人本位に検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話、家族様からのお話などにより少しずつですがバックグラウンドに関する情報の把握に努める努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用前情報、生活歴等や常日頃からの観察及び記録（日々の経過記録、訪問看護記録など）にて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には計画作成とモニタリングに関しては、計画作成者が日々の記録、ケアカンファレンス、利用者様や家族様からのご意見をもとに作成している。アセスメントに関しては、MDS、東京センター方式（C-1-2）を使用し、ご利用者様の情報収集が行えるように努力している。	面会時等に聞き取った家族の意向を基に、アセスメントを行い介護計画を作成しています。3ヶ月に1回ケアカンファレンスを開催し、変化がなければ6ヶ月毎に見直しています。見直しにあたっては、日々の記録や職員からの意見を基に計画担当者がモニタリングと評価を行い、再アセスメントとサービス担当者会議を開催し様々な意見を反映させています。また、全職員が介護計画を把握し易いよう、各利用者のケース記録の上にファイリングする等の工夫をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護経過記録（フォカスシート）を作成し、日々のご様子、排泄、食事、バイタル確認などを記録している。その経過記録をもとに職員間の情報の共有をしている。また、その介護経過記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院に関して家族様のご都合、利用者様の急な身体的な訴え時には、事業所として対応可能な場合には柔軟な支援ができるように努力している。		

ケアサポートセンター 鷹峯（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	単独外出で行方不明になる可能性がある利用者様のことで、近くの交番に相談、そして協力をよびかけている。地域の消防団には、定期的な消防避難訓練にご参加していただき、グループホーム内部の把握（ご利用者様、建物構造など）に努めていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が希望されるかかりつけ医となっている。受診や通院はご家族様にご願っているが不可能な場合は職員が付き添うようにしている。往診希望される場合は、ご紹介も行っている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いています。受診は基本的に家族が行い場合によっては職員が同行し相互に報告し合い、情報を共有しています。月2回の医師の往診や週1回の訪問看護があり、協力病院は24時間連絡可能となっています。また歯科、皮膚科、眼科、耳鼻科等も状況に応じて往診があり、医療体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をとっている訪問看護師とは、なんでも相談できる間柄となっている。週に1回の訪問看護師来所時には、連絡記録で利用者の情報を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所としては、病院に入院する際または退院する際には病院の地域連携室に挨拶やお礼などで連絡し、よりよい関係を築くことを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一時期、利用者様がターミナルに近い状態にあり、事業所として早くから終末期に向けた話し合いを行っていたものの、現在はそのような状況の利用者様はいない。全ての家族様、利用者様の終末期の希望は把握できていない。	入居時に重度化した場合の方針について説明をしています。食事が摂れなくなった時点で、医師や家族と話し合いを持ちながら支援する中で回復された事例もあり、事業所としては家族の協力の下、医療行為を必要としなければ支援していきたいと考えています。医師や看護師による看取りについての勉強会も行い、職員間で共有しながら進めていきたいと前向きに考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習会、AED（自動体外式除細動機）の講習会を職員に受講させてはいるが、すべての職員が急変や事故発生時には対応できるまでにはいたっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団には、消防署合同の消防避難訓練に参加していただき、利用者様の様子などお話をいただき、協力体制をお願いしている。テーマを夜間の火災、地震災害とし、訓練を行ったでいる。	消防署指導の年間2回、夜間を想定した火災と地震の場合の訓練を地域の消防団の協力を得て実施しています。通報や初期消火、避難誘導等の訓練の他、避難する場所の確認等を行っています。地域の防災訓練には利用者と一緒に参加しています。災害に備えて水や食料などの備蓄も行っていきます。	

ケアサポートセンター 鷹峯 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない言葉づかいや職員の声の大きさなど職員全員で配慮しているものの、職員間での統一がなされていないのが、現状。	職員は新人研修で接遇について学ぶ機会があります。トイレ誘導時の声掛けへの配慮や日々の言葉づかい等に注意を払うよう努めています。全職員の一貫した対応が充分できておらず、不適切な言動が見られた場合は会議等で事例を挙げながら注意をするようになっています。次年度は全職員が学べるよう認知症ケアと接遇についての研修を予定しています。	法人内外の研修参加やホームでの勉強会実施の他、会議等で日頃の対応について自分自身を振り返る機会を定期的に持ち、全職員で意識統一を図られることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定がご自分で表せない利用者様には、職員ができる限り寄り添って表情やふと発する言葉で感じたりできるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日その日によって、一人ひとりの利用者様の過ごし方は違う。希望、体調、その日のその利用者様の予定などを含めて柔軟に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容には来ていただいているが、馴染みのところがある利用者様はそちらで散髪等している。おしゃれに関してはいつまでもお綺麗でという思いで日々、支援している。季節に合わせて、衣類を準備してくださるご家族様も多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と簡単な料理、盛り付け、味見、配膳、下膳など職員一緒に行う努力をしている。出来ない日もある。食事を一緒に楽しめる雰囲気作りも大切にしている。食器洗いをご自分の仕事と考えてらっしゃる方もおられる。裏の畑でとれた野菜など利用者様と収穫し、食卓にならぶと、喜ばれる。	献立は当日の担当者が利用者の希望を取り入れながら、野菜を中心に魚、肉を交互に使用するなど栄養のバランスを考慮して決めています。野菜を切ったり、味付けや盛り付け、食器の片付けなど、出来ることに携わってもらい職員と一緒に食事を作っています。検食簿を記入し次の献立にも反映するようにしています。外食や出前を取ったり、畑で採れた野菜等が食卓に上がる事が楽しみとなったり、日々職員と共に会話を楽しみながら食卓を囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は一人ひとり記録に残している。食種に関しては、日々の観察、主治医や訪問看護師の助言、介護職員で決定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には毎食後、ご自分で出来る方はご自分で歯磨きを、介助が必要な方は介助にて口腔ケアを出来る限り行っている。義歯は夜間は、消毒液に浸し、清潔に保つ努力をしている。		

ケアサポートセンター 鷹峯 (1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、8名の利用者様がリビングのトイレを使用し排泄されている。利用者様の些細な訴えや表情などでトイレにお連れすることもあり、失敗が少ない日もある。なるべく、排泄はトイレでという思いが職員に浸透しているものの、職員数が少ない日はトイレにお連れする回数が少ない日もある。	支援が必要な方には、排泄チェック表や表情、仕草等から排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い、出来る限りトイレで排泄出来るよう支援しています。失敗の回数が減ったり、紙パンツから布パンツに移行した方も数名あり、皮膚の改善に繋がる等、自立に向けた排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご自分で牛乳を飲まれたり、ご家族様が排便のことを気にされヨーグルトを持参されたり、腹部をあたためたりとなるべく薬にたよらない方法で快便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方的に入浴を決めず、利用者様のその日の希望を確認し、入浴していただいている。夜間、入浴される方もいる。夜、足浴後、寝床に入られるご利用者様もおられる。	週に2回を目途に時間や回数等、希望に沿って入浴の支援をしています。入居前の生活習慣にも配慮し、夜間に入浴されている方もあります。湯は毎回変え清潔に心がけており入浴剤や好みのシャンプーやリンスなど使用している方もあります。入浴を拒否される場合は、入浴前に楽しめることを行い気持ちを高め入ってもらおう等の工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子に座っている利用者様にはソファーに座っていただきほっこりした時間を過ごしていただいたり、時にはベッドで休んでいただいたりしている。また、寝る前に足浴をしたり、寝られない居室から出てこられるご利用者様には、暖かい飲み物、お菓子をお出しして、お話をするなどして夜を過ごすなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのケースファイルに薬局からいただいたお薬リストをはさみ、職員が確認する努力をしている。塗り薬や貼り薬の一覧表をつくり、職員が周知できるように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや興味があることで利用者様がその力を最大限に発揮していただけるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩、家族様とよく行くお寿司屋さん、欲しい物の買い物など職員や家族様と足を運んでいる。外出が好きな利用者様はご家族様と外出され、お酒を飲まれ、ほろ酔い気分帰宅される。	天気の良い日は散歩や買い物、ドライブに出かけています。畑の水やりや野菜の収穫に出たり外気浴を兼ねて玄関先でお茶を飲むこともあります。植物園や花見、紅葉狩りなど季節を感じてもらえるような外出や食事外出には家族の協力もあり一緒に楽しんでもらっています。また図書館に本を借りに行くなどの個別支援も行っています。	

ケアサポートセンター 鷹峯（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中には、ご自分で財布を所持しており、病院受診の際の支払い、買い物時の支払いなどご自分でしていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自由にしていただくことを基本にしている。制限はもうけていない。携帯電話を使用されているご利用者様は1名。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく生活感を感じていただけるような安心できる空間作りに努力している。日中は、リビングですごされる利用者様がほとんどである。季節の行事ごとに壁面に飾りつけを行い、演出している。	リビングは窓からの採光で明るく、加湿器や温湿度計を置き快適に過ごせるよう配慮しています。随所に花が生けられ、利用者と共に作成した季節毎の作品を飾るなど、季節を感じる工夫をしています。また昔ながらの家具等を置き、落ち着いた雰囲気の中、ソファを置き寛げるスペースも設けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルが3台と椅子、テレビ前にはソファがある。気のあった同士、テーブルでランプをして遊んだり、お話をしたり、テレビをみることが好きな利用者様はソファに座って楽しまれます。ホーム内では、居室が独りになれる場所となっている。玄関先には木の長椅子があり、外の風にあたって気分転換できる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の馴染みのあるもの（タンス、ベッド、服、写真、CDなど）持ち込んでいただき、馴染みある中で過ごしていただけるように配慮している。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に説明し、使い慣れたタンスやイス、三面鏡、茶道具などを持ち込まれたり、家族の写真を飾る等、その人らしく安心して過ごせるよう配慮しています。居室は畳敷きになっており布団を敷いたりベットを置いたり、利用者の生活習慣や好みに合わせて選んでもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はご利用者様が安全かつできる限り自立した生活が送れるように配慮した作りとなっている。トイレの電気のスイッチの場所がわからないご利用者様には、電気という表示を貼りだしたりして工夫を凝らしている。		